

# KOBELCO CUPは僕達のルーツ

中学から始めたラグビー。しかし、中学時代はチームが弱く、3年の時には1勝も出来ませんでした。高校では先輩が抜けると、12人しかいなくなりました。練習はキツイのに、試合に出られない、出ても勝てないという状況が続き、ラグビーを辞めようと思いました。しかしその時、監督から「合同チームに選ばれるかもしれないから」と言われ、「KOBELCO CUP」出場を目標に練習を頑張りました。すると、U18関東ブロックに選ばれ、大会では優勝することが出来ました。今まで“1番”になったことがなかったので、すごく良い経験になりました。父が歯科医のため、歯科大学進学を考えていて、ラグビーは高校までのつもりでしたが、その後全国大会決勝戦の前に行われる「U18東西対抗戦」の東軍メンバーに選ばれ、その試合後に「花園」で決勝戦を戦う同級生の姿を見た時に、「レベルは違うけど、自分もこの選手たちと一緒にプレーしたい」と思い、ラグビーを続けることを決意。歯学部への合格通知をもらっていたが、両親を説得しニュージーランドへの留学を経て、1年遅れで大学へ進学しました。ラグビーを続けることが出来たのはこの大会のおかげです。だから「KOBELCO CUP」は僕のルーツだと思っています。普段日の目をみない子たちも、この大会は輝かせてくれる機会を与えてくれる場所なので、みんな全力を尽くして諦めずに頑張ってください。

第10回 U18 関東ブロックで出場

中川 真生哉 (27) さん

1996年9月12日生まれ、神奈川県出身。玉川学園中学部でラグビーを始める。日本体育大学で中心選手として活躍した後、2020年に三重ホンダヒートに入団し、1年目から公式戦全試合先発出場。2022年より三菱重工相模原ダイナボアーズに移籍。身長191cm、体重104kg ポジションはロック。



小学1年から野球をやっていましたが、愛媛・西条高校に入るとケガで断念。当時から身長が195cm近くあり、誘われてラグビー部に入りました。ただ部員が15人に満たず、合同チームで試合に出場したことも……。高校2年の夏、KOBELCO CUPにU17四国ブロック代表に選出され、初めて全国レベルの大会を経験し「ラインアウトが通用した！」と手応えと自信をつかめました。またKOBELCO CUPに出たことがきっかけの一つとなり、立命館大学に進学。大学でHO庭井祐輔、FL嶋田直人(ともに横浜キャノンイーグルス)らと切磋琢磨したことが、その後のトップリーグ(現リーグワン)や日本代表につながりました。また小さい頃から漠然と「教師になりたい!」と考えていました。現役引退後、コーチをしていましたが、福島県の聖光学院に体育の教師として赴任、ラグビー部で指導し2年目となります。高校3年でもKOBELCO CUPにU18四国ブロック代表で出場したのですが、神戸製鋼(現コベルコ神戸スティーラーズ)の現役選手に指導してもらい機会があり、それが現在の指導でも役立っています。花園(全国高校ラグビー大会)に出場し、まず1勝、そして正月越えを目標に選手たちと日々、頑張っています。KOBELCO CUPに選手を輩出したいですし、近い将来、リーグワンや日本代表で活躍するような国際的な選手も育てたいと思っています。

第4回・5回 U17・U18 四国ブロックで出場

宇佐美 和彦 (32) さん

1992年3月17日生まれ、愛媛県出身。西条高校でラグビーを始める。立命館大学時代、身長198cmの体格を活かした空中戦での強さが評価され日本代表に初招集。横浜キャノンイーグルス、埼玉パナソニックワイルドナイツ、サンウルブズでプレー。現役引退後、2023年から福島県・聖光学院の教師となり、ラグビー部で指導している。日本代表キャップ10



## “オリンピック・ワールドカップ” 世界はすぐそこだ! パリ五輪に向けて

昨年、男子のラグビーワールドカップが行われたフランスで開催されるパリ五輪。7人制ラグビー(セブンズ)は2016年のリオデジャネイロ五輪から正式種目となって今回で3回目を迎えます。男女ともに五輪出場を決めた日本代表の中には、「KOBELCO CUP」で活躍した選手たちが多く名を連ねています。夏の菅平高原で行われる「KOBELCO CUP」を経験した選手たちが15人制・7人制を問わず活躍していることから、この大会が普及と育成にとって日本ラグビー界に大きな役割を果たしていることが窺えます。未来の日本代表を背負う高校生たちをぜひ応援してください!



## 世界へはばたく日本ラグビー界を盛り上げよう!

ラグビーワールドカップ2019日本大会は、日本全国を巻き込む大きな盛り上がりを見せ、日本代表チームのみならず、ラグビーそのものの価値を日本そしてアジアで飛躍的に高める結果となりました。2019年から5年が経ち、日本全国で継承されているレガシーをさらに発展させ、「世界一ラグビーが身近にある国へ」と歩みを進めていくことは、日本ラグビー界が掲げる大きなミッションです。もう一度ラグビーワールドカップを日本で開催し、そこで世界一になること、世界に誇るナンバーワンのラグビーユニオンとなることを目指し、日本ラグビーの世界への挑戦は続きます。

2023年5月、日本ラグビーフットボール協会は国際競技連盟のワールドラグビーによって、世界のラグビーユニオンの中で最上位となる「ハイパフォーマンスユニオン」に認められ、ラグビーの国際的発展に向け強豪国と肩を並べることになりました。1926年に日本ラグビーフットボール協会が創設されて以降、日本ラグビーは全国の関係者による長きに渡る努力と貢献に支えられ、学生ラグビーを中心に発展を遂げてまいりました。2003年、従来の全国社会人大会が発展的に解消され、国内最高峰の「ジャパンラグビートップリーグ」が誕生すると、日本代表の強化が加速し、2015年そして2019年のラグビーワールドカップにおける日本代表の躍進によって、日本ラグビー界は新たな地平を拓きました。2022年に開幕した「ジャパンラグビー リーグワン」には、世界トップクラスのプレーヤーが続々と集まり、ハイレベルな試合と各チームの個性豊かなファンサービスで年々盛り上がりを見せ、世界最高峰リーグへと成長しています。

世界一ラグビーが身近にある国となるためには、まず一人でも多くの子ども達にラグビーボールに触れ、全国各地で誰もがラグビーを楽しめるコミュニティの構築が大切です。また、中学、高校、大学、社会人からシニアまで、それぞれがその成長の過程で競技を継続し、生涯に渡りラグビーに関わることでできる環境の整備が欠かせません。そして、世界のラグビー界が大切にしているラグビーの5つのコアバリュー、「品位・情熱・結束・規律・尊重」の価値観が、競技に関わる全ての人たちによって共有され、体现されていくことが重要です。

「KOBELCO CUP」として開催される全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会は、全国の高校生競技者が目標とする大会の一つで、本大会によって創出されるプレー機会が競技の継続と普及に果たす役割は大きく、ユース世代のラグビー活性化の礎となっています。例年ハイレベルな試合が繰り広げられる本大会では、選手がその実力を存分に発揮する姿のみならず、新たな仲間と友情を育み、ラグビーを通じてグラウンド内外で成長を遂げていく姿が見られます。また、本大会に出場した後に日本代表となってワールドカップで活躍している選手も多く、日本代表への今後の成長を楽しみに観戦されるファンの方も多いことでしょう。

日本ラグビーの未来を担うユース世代の活躍にぜひご注目の上、全国そして世界へはばたくラグビープレーヤーの誕生にご期待ください。皆さまからの熱いエールをお待ちしております。



今年の夏は  
長野県・菅平高原へ!



日本ラグビー界の未来! 高校生みひと夏を応援しよう

# KOBELCO CUP 2024

第20回 全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会  
第14回 全国高等学校女子合同チームラグビーフットボール大会



高校ラグビー夏の風物詩が  
20回目を迎えます!



大会日程 2024 7/31(水) - 8/3(土) 会場 アンダーアーマー 菅平サニアパーク

8/1(木) 開会式 / U17・U18・女子 予選リーグ 8/3(土) U17・U18・女子 決勝リーグ

KOBELCO CUP “菅平”から“世界”へ!



# KOBELCO CUPとは？

## ～合同チーム大会の誕生～

高校ラグビーの競技人口は1992年をピークに減少しています。部員不足のため15人制の単独チームを編成できないラグビー部に所属する高校生のために合同チームの全国大会をつくることは高校ラグビー関係者にとって大きな課題であり夢でした。そんな中、2005年に北海道・夕張市でこの大会は、部員不足の高校から選抜して編成する「U18の部」と将来の日本代表を目指していち早く強化につなげる「U17の部」を同時に開催しそれぞれ北海道から九州まで全国を9ブロックに分けたブロック対抗の形で始まりました。2008年の第4回大会からは、舞台を長野・菅平高原に移し、2011年からは「女子7人制の部」が開始、さらに4年後、2015年には15人制となり「全国高等学校女子合同チームラグビーフットボール大会」へと進化を遂げます。そして今年、大会は20年の節目の時を迎えます。

## ～U17の部～

全国から選抜されたU17代表選手による高いレベルの試合を通して、ラグビー競技に必要な基礎体力、技術、知識等、選手の資質向上を図ります。昨年行われたワールドカップフランス大会の日本代表選手36名のうち20名は「U17の部」出身です。

## ～U18の部～

2008年度よりこの大会で選抜されたメンバーが、年末年始に全国大会が行われる東大阪市花園ラグビー場に集結。「U18合同チーム東西対抗戦」に出場します。部員不足で合同チームでしかプレーできずに高校ラグビーを“卒業”した選手がその後、大学やリーグワンでラグビーを続けるケースも増えています。

## ～女子15人制の部～

15人制ラグビーの試合を行う機会が少ない女子選手に、高校生年代から15人制ラグビーを経験する場を提供することで女子ラグビーワールドカップなど国際舞台に向けた15人制女子ラグビーの強化、発展に大きく貢献しています。



株式会社 神戸製鋼所  
代表取締役社長 勝川四志彦

## Message

KOBELCOグループが協賛する「全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会(以下、KOBELCO CUP)」が、今大会で20回目を迎えられることを非常に喜ばしく思います。

KOBELCOグループは、1928年よりラグビーチームを保有し、日本選手権においては、7連覇を含め10度優勝するなど日本ラグビー界の発展にも貢献してきました。近年の少子高齢化等による日本のラグビー競技人口の減少に対し、ラグビーの競技人口の裾野開拓や底辺拡大に貢献したいと考え、2005年の第1回大会から本大会に協賛しています。

この大会を経験した多くの選手が、ジャパンラグビーリーグワンの各チームに所属して日本のラグビー界を牽引しています。また、昨年行われましたラグビーワールドカップ2023フランス大会でも日本代表選手36名中20名が「KOBELCO CUP」の経験者となっています。

そして、2011年には「全国高等学校女子合同チームラグビーフットボール大会」として「女子の部」もスタートし、今年で14回目となります。日本の女子ラグビーの活性化やレベル向上にも寄与しています。

今後も、多くの「KOBELCO CUP」経験者が、ジャパンラグビーリーグワンやオリンピック、ワールドカップで飛躍すると共に、ラグビーで培ったかけがいのない経験をもとに様々なフィールドで活躍することを期待しています。

KOBELCOグループは来年、創業120周年を迎えます。KOBELCO CUPが今年で20周年ということもあり、120周年記念事業の一環で今年からKOBELCO CUPのプロモーション強化を行う予定で、本タブロイド誌の発行を含めて様々な企画を検討しております。KOBELCOグループは今後も「Team KOBELCO」として、引き続き高校ラグビーの活性化・普及に、一層の支援をしてまいります。

# KOBELCO CUPに出場して

## 第1回大会(2005年)U17 近畿ブロック

今から19年前、第1回大会に参加させていただきました。大会では対戦相手として戦ったこともあるチームの選手たちと一緒にU17近畿ブロックの一員として試合に出場しました。いつもとは違うメンバーで試合をしたことは新鮮で楽しかったことをよく覚えています。やろうとしていたラグビーも、東海大仰星高で標榜していたラグビーとは別のものだったので、いろいろな考え方に触れることができ、刺激を受けました。それに加えて、指導していただいた選手からさまざまなプレーを学ぶことができたことも良かったです。コベルコカップに参加し、自分のチームだけでは知ることができなかったことをたくさん教えていただき、世界が広がったように思います。また、大会期間中はラグビーだけでなく、参加している選手たちと合宿先でワイワイ過ごせたことも良い思い出です。今年出場する選手の皆さん、他チームの選手と交流できる貴重な時間ですので、1つでも多くのことを吸収し、楽しんでください！

## 山中 亮平(36)さん

1988年6月22日生まれ。大阪府大阪市出身。188cm・98kg。ポジションはFB。14歳からラグビーを始め、東海大仰星高では3年時にSOとして全国大会優勝に貢献。早稲田大学では1年から公式戦に出場し、4年の時に日本代表初選出。2011年神戸製鋼(現・コベルコ神戸スティーラーズ)へ。FBに転向した2018-2019シーズン、トップリーグ優勝に貢献。2019年ワールドカップ日本大会に出場。2023年フランス大会にも追加で招集される。日本代表キャップ30



## 第13回大会(2017年)U17 近畿ブロック

高校2年の時に、長野県・菅平高原で行われた大会に、U17近畿ブロックの一員として出場しました。大会では全国9ブロックに分かれて対戦するU17予選リーグで東海ブロック、北信越ブロックに勝利し、決勝リーグへ進みました。そこで九州ブロックを54-0で破り、勢いにのるとその後の決勝戦では関東ブロックと対戦し19-0で勝利しました。レベルの高い選手ばかりが出場している大会で優勝できたことは自信になりましたし、良い思い出として記憶に残っています。また、大会期間中は、近畿ブロックのチームメイトだけでなく、他の地域の選手ともグラウンドや菅平の街中で交流することができました。会話を通じて日本代表やワールドカップに出場することなど、同じ夢を持つ選手がたくさんいることを知り、刺激を受けたことをよく覚えています。あれから7年が経ちましたが、コベルコカップで出会ったラグビー仲間とは、今でも交流が続いています。今年出場する選手の皆さんも地域を代表する仲間たちと最高の青春を楽しんでください！応援しています。

## 李 承信(23)さん

2001年1月13日生まれ。兵庫県神戸市出身。176cm・86kg。ポジションはSO、CTB。4歳からラグビーを始め、大阪朝鮮高級学校では2年の時に高校日本代表に選出。3年の時に主将として花園出場。帝京大学では1年からレギュラーを獲得するも海外でプレーすることを目指して中退。コロナ禍で渡航ができず、2020年神戸製鋼(現・コベルコ神戸スティーラーズ)入団。SOとして1年目から出場し、2022年から2シーズン副将を任された。2022年日本代表入りを果たし、ラグビーワールドカップ2023フランス大会出場。日本代表キャップ11



# 今年のKOBELCO CUPは？

昨年は、U17の部では、近畿ブロックが2018年以来となる6回目の優勝。U18の部では関東ブロックが2017年以来4回目の優勝を飾った。U17カップ(予選1位グループ)の部は、近畿、関東、九州で覇権を争っているのに対し、U18では、東海が近畿を破って進出するなど健闘し、地域のレベル差がなくなってきた印象を受けた。大会前からしっかりと練習を積んで、大会中にさらに連携を深めたブロックが大会で躍進していると言える。女子15人制の部は、九州が得失点差で優勝を決めるなど僅差で連覇を果たした。前回までは、決勝リーグ(5ブロック)・育成リーグ(4ブロック)に分けて開催していたが、今大会からは男子と同じく、9ブロックで予選リーグを行い、その後、カップ、プレート、ボウルに分かれて優勝を争う形式になる。競技レベルの地域間での差がなくなってきている表れとなっている。



## レジェンドの言葉

現役時代はフランカーとしてプレーし、神戸製鋼では全国社会人大会と日本選手権の7連覇を達成しました。ただ、そんな私も、全国的に無名な宮崎県内の高校で初めてラグビーに出会いました。5つ上の兄が、先にラグビーをやっていたことがきっかけでした。

当時は、大学生と高校生と一緒に練習するのが一般的な時代。自分よりも身体が大きく、ガッシリした兄たちを相手に、必死に走り回っては抜かれまいと喰らいついていました。それが役立ったのか、高校3年時に招集された高校日本代表候補のセレクション合宿で、全国から選ばれた強者相手に自分のタックルが通用したんです。いつもの同じ環境から外に出て体感したことが、その後の自信になりました。コベルコカップには2つの意義があります。まず、将来の日本代表候補生の育成と強化。もう1つは、部員不足で人数が揃わず、15人でプレーすることが難しい中でラグビーをしている高校生へのチャンス。ここで活躍すると、年末の全国高校ラグビー大会のU18合同チーム東西対抗戦メンバーに選出され、聖地花園でプレーすることができます。その後、日本代表のジャージーに袖を通した選手や、レフェリーとして活躍する方もいます。コベルコカップは、世界への扉になっているんです。

私自身、第8回コベルコカップからコーチとして参加し、現在は神戸に拠点を置くSCIXラグビークラブでもコーチを務めています。大事にしているのはコミュニケーション。例えば、ボールをもらう味方に対して、キャッチしてから声をかけるのか、キャッチする前から声をかけるのか。それだけで、プレーの幅や選択肢は大きく変わります。それに気付けるだけで、お互いが繋がりが、いいラグビーになります。

特に高校生は、貪欲に学ぼうとする姿勢が前面に出ていて、成長が著しい。コベルコカップの数日間、寝食をともにしながら、練習して、試合して、夜はミーティングで話し合っ…。解散する頃には、みんな別人のような顔つきになっています。その期間で学んだこと、気づいたこと、なんでもいいんです。なにかを挿んで、自信にしていってほしい。それを自分のチームに持ち帰り、伝えていくこともまた素晴らしいことです。生前、ともに神戸製鋼でプレーし、コベルコカップにコーチとしても参加した平尾誠二さんは、絶対に諦めない人でした。練習中のタッチフットでさえも、やっぱり諦めない。最後まで追いつけないと「なんで諦めんねん!」と、自分にもチームメイトにも厳しかった。途中で諦めたら、チームメイトに申し訳ないし、格好悪い。時代とともに、ラグビーの戦術やルールは進化していますが、ここは揺るがない部分だと思います。みなさんにも、どんな状況であっても最後まで諦めず、堂々とプレーしてほしいです。最後に、このコベルコカップで出会った仲間を大切にしてください。もちろん、願わくはこの先もラグビーを続けてほしい。ただ、たとえラグビーから離れたとしても、ここで出会ったのは一生の仲間です。これまでも、最終日には「ずっと友達でいてくれよ!」と言ってきました。北海道から沖縄まで、日本全国から一斉に集うこの機会。ここで出会った縁を、この先の人生でも長く、大切にしてください。

# “もうひとつの花園”の集大成 ～U18 東西対抗戦～

「KOBELCO CUP」U18の部に出場する選手たちのさらなるモチベーションになっているのが、全国高校ラグビー大会の準決勝前に「聖地・花園」で行なわれるU18東西対抗戦だ。

もうひとつの花園として、部員不足など恵まれない環境でプレーする高校生たちの夢の完結する場所として用意された。2008年度より始まったこの東西対抗戦には、夏の「KOBELCO CUP」で選考された50人の選手たちが、東西に分かれて憧れの花園でプレーをする「夢の試合」となっている。

前回の試合は、29-24で東軍が熱戦を制した。試合序盤、互いにペナルティーゴールで3点ずつを奪い合うと、前半21分にスペースを上手くついた東軍が両軍通じてはじめてのトライ。ゴールも成功し、10対3で前半を折り返します。

両軍ともメンバーを入れ替えて臨んだ後半は、一歩も譲らない展開に。17対17と同点で迎えた後半23分、自陣22メートルライン付近で、ボールを持った西軍の途中出場22番宗賀が、相手のディフェンスをかわし、約80メートルを走り切る独走のトライ。ついに勝負あったかと思われた。

しかし、あきらめない東軍は後半30分、フォワードがモールを押し立ててゴール目前に迫ると、最後はバックスへ展開し右隅にトライ。ゴールも決まって24対24の同点に追いつきます。

そして迎えたラストワンプレー。キックオフのボールをキャッチした東軍は、そのまま自陣からボールを回すと、最後までつなぎ切って勝ち越しのトライ。

ロスタイムまで勝敗のわからない一進一退の熱戦を東軍が制した。ノーサイドの瞬間には、すばらしい試合を見せた両軍に会場から大きな拍手が送られ、選手たちは観衆にあたたかく見守られながら「聖地・花園」を後にした。



写真：2020年1月7日 U18 東西対抗戦



むとう のりお  
**武藤規夫さん**  
1964年10月19日生まれ。宮崎県出身。延岡工業高校1年生でラグビーを始め、同志社大学を経て1988年に神戸製鋼入社。1989年のV2から、「ボールあるところに武藤あり」と言われるほど無尽蔵なスタミナを備えたフランカーとして活躍。1994年のV7まで不動のレギュラーとして日本一に貢献する。2000年7月のSCIX設立時から事務局スタッフとして参加、並行してSCIXラグビークラブのコーチも務める。コベルコカップには、2012年の第8回からコーチとして参加している。